

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【芸術科／書道Ⅰ】

1. 対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

本校は、普通科8クラス、理数科1クラスが併置され、生徒のほとんどは4年制大学進学を希望している。男子が女子よりやや多く、学習だけでなく行事や部活動も生徒が主体となって活発に行なわれている。

対象とする集団は、男女とも素直で落ち着きがあり、1学期の書体の変遷や楷書の学習、篆刻の学習の授業から書への興味、理解が深まりつつある。ややおとなしい一面もあるが、今回のグループ活動を通して主体的に学び、書表現の奥深さを理解させたい。

2. 単元名

書道Ⅰ「漢字・仮名交じりの書の学習」（全10時間）

3. 単元目標

(1) 書の伝統と文化に関心を持ち、古典の表現や鑑賞の創造的活動に主体的に取り組む。

【書への関心意欲・態度】

(2) 古典のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。

【書表現の構想と工夫】

(3) 創造的な書表現をするために、古典の表現の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付けて表現する。

【創造的な書表現の技能】

(4) 日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わう。

【鑑賞の能力】

4. 本時の目標

作者の心情（感情）が、様々な形で書作品に表現されることを知り、各自の作品制作に生かす。

5. 授業展開

解決したい課題や問い

書作品から作者の心情（感情）読み取ろう！

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C	考えるための材料D
王羲之「蘭亭序」 作品部分 作品についての概要	顔真卿「祭姪稿」 作品部分 作品についての概要	空海「風信帖」 作品部分 作品についての概要	米芾「蜀素帖」 作品部分 作品についての概要
想定される活動	想定される活動	想定される活動	想定される活動
<ul style="list-style-type: none"> ・運筆速度：ゆっくり ・墨の潤渴：殆どない ・連綿：なし ・線の太細：抑揚がある 以上のことから、ゆったりと落ち着いた気分で書いている。曲水の宴の後、ほろ酔い気分で書いているのではないかと感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・運筆速度：かなり速い ・墨の潤渴：潤渴が明確、渴筆が多い。 ・線の太細：太い ・連綿：多数あり 以上のことから、感情の起伏が激しい。甥を戦乱で失った怒り、悲しみが表現されると感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・運筆速度：初めはゆっくりだが、次第に速くなる。 ・墨の潤渴：あり ・連綿：一部あり 以上のことから、空海が先輩の最澄宛てに、やや緊張して書き始めるが、気分が乗ってきて次第に気持ちよく筆を進めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運筆速度：蘭亭序よりやや速い ・墨の潤渴：あり ・連綿：なし 以上のことから、ゆったりとした気分で書いている。米芾が船上から見た情景を詩にしたもので、詩情豊かに書かれている。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

学習活動の流れ

- ① A～Dの古典作品の作者の心情（感情）を読み取り、自分の力でまとめる。（15分）
- ② 4～5人のグループに分かれる。各班でA～D古典作品のひとつについて、資料を使って作者の心情や人物像、性格などと表現方法との関連について推測し、ワークシートにまとめる。（7分）
- ③ A～Dそれぞれ一人ずつ集ってグループを作り、自分が担当した作品について説明し合う。（8分）
- ④ ②のグループで、書作品に表れる作者の心情（人間性）と表現方法との関連をワークシートにまとめる。（5分）
- ⑤ 全体に発表する。（15分）

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ジグソー活動では、考えたことや感じ取ったことを自分なりの言葉で表現できている。
- グループで導き出した答えに対して、全体発表を受け、自分なりの結論を見つけることができる。
- A～Dの古典作品から作者の心情と書の表現には関連があることを理解し、自己の表現の学習に生かしている。
- 漢字仮名交じりの書の創作作品の制作にあたり、どのように心情表現を工夫するか考えようとする。

予想される生徒のあらわれに関する育成すべき資質・能力三つの柱からの分析

① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・古典作品の鑑賞を通して、書かれたときの作者の感情や人物像を想像することができる。・運筆速度の緩急、抑揚、墨量などを工夫して古典を臨書することができる。
② 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none">・書かれた線の太細や潤濁（にじみとかすれ）、文字の間隔、行の間隔、運筆速度、連綿などと、作者の心情（感情）を関連付けて表現している。・作者の生きた時代や役職などの背景と関連付けて表現している。
③ 主体性・学びに向かう力 協働性など	<ul style="list-style-type: none">・グループで考察することにより他の意見を参考にしながら自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現している。・自分の作品を創作するにあたり、心情表現をどのようにするかという問いが生まれる。

授業実践振り返りシート（授業前後）

解決したい課題や問い 「書作品から作者の心情（感情）を読み取ろう」

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん	C…急ぐ気持ちが分かる。心が乱れているせいか、草稿のせいか、文字の塗りつぶしや、書き直しがある。 D…初めは穏やかな気持ちでゆっくり書かれた。途中からスピードが速くなった。	C…殺された甥への思いがつのついている。心が乱れているせいか、草稿のせいか、文字の塗りつぶしや書き直しが多く気持ちが表れている。 D…太湖付近を遊覧した際にできた詩で、その景色を思いながら穏やかな気持ちでゆっくり書いた。
Bさん	A…しっかりした文字で書かれているから、落ち着いた気持ちで書いた。 B…書くことが多かったため、全体的に速く書いている。しかし、行間が均等なので速く丁寧に書いている。目上の人への手紙だから。	A…渴筆があまりなく行の間隔もほとんど均等なので、落ち着いた気持ちで書いている。 B…自分より目上の最澄に宛てた手紙だが、書く内容が少し多かったため、速く落ち着いて丁寧に書いた。
Cさん	A…丁寧に繊細。心にゆとりを持っている。気分よく楽しい気持ち。明るい。	A…曲水の宴の詩会がゆったりと穏やかで楽しい会だということが文字に表れている感じがした。王羲之がゆったりと丁寧に書くことで、詩会の明るく楽しい様子を表している。

授業設計の振り返り	
解決したい課題や問い	<ul style="list-style-type: none"> 4つの書作品から「作者の心情を読み取ることは可能か」から「…読み取ろう」としたため、書作品に心情表現は可能という視点から課題解決に臨むことができ、活動が焦点化された。 作者の状況説明が主となり、心情まで考察することができない生徒もいた。
考えるための材料	<ul style="list-style-type: none"> 書作品から作者の心情を読み取る観点として、「運筆速度」、「潤渴（にじみとかすれ）」、「線の太細」、「その他（文字間隔、行の間隔、余白等）」の項目を提示したことが、比較、統合して考える材料になった。 資料にそれぞれの作品の「概要」を示したが、内容の難解なものもあった。教師の説明が必要であり、説明に時間を取られたり、説明過剰となったりして、生徒の自由な発想の障害となった。
対話と思考	<ul style="list-style-type: none"> エキスパート活動、ジグソー活動によって他者の意見を聞き、新しい気付きや発見があった。また、課題を深く考えることにも効果があった。 時間的に無理があり、グループごとに発表するクロス・トーク活動まで発展させることはできなかった。時間に余裕を持って活動させる必要がある。
学習の成果	<ul style="list-style-type: none"> 「墨のにじみ方やかすれ方、行間等で書き手がどんな思いで書いたか分かった」や「心情によって文字の雰囲気が変わると思った」という感想が多かった。 各作品制作に心情表現をどのように工夫するか、という点について理解の深まりに課題が残った。